

作物統計調査

令和8年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量（九州）

令和8年産水稻作付面積（主食用）は、15万3,900ha（対前年比103%）。主食用米の予想収穫量は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで74万7,900トン（対前年比101%）。10a当たり予想収量は、486kg（対前年比99%）。

【調査結果の概要】

- 1 9月25日現在の生産者が使用しているふるい目幅（1.80mm、1.85mm）ベースの予想収穫量（主食用）※¹は74万7,900tで、前年産に比べ1万1,000t増加と見込まれる。

※1 生産者が使用しているふるい目幅（1.80mm、1.85mm）ベースのふるい上米

これは、

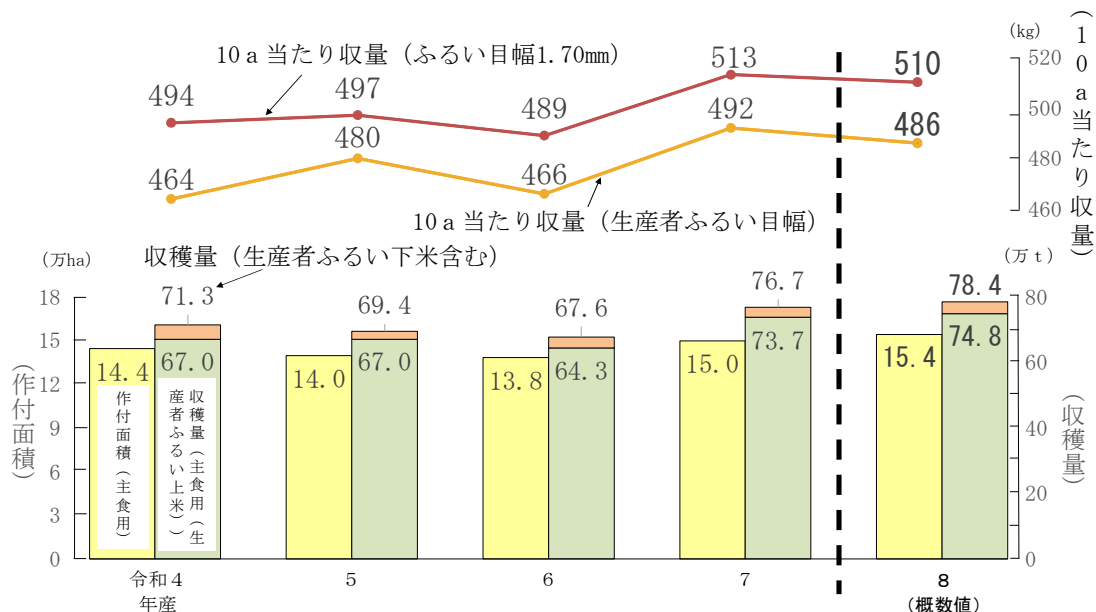
- ① 作付面積（主食用）が、15万3,900haで、前年産に比べ4,400ha増加と見込まれることに加え、
 - ② 9月25日現在における九州の10a当たり予想収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）が、田植期以降、総じて多照で推移していたものの、9月の日照不足等の影響がみられたため、486kg（対前年比99%）と見込まれるためである。
- 2 九州の作況単収指数は103と見込まれる。各県の作況単収指数は、表2のとおりである。

参考

9月25日現在のふるい目幅1.70mmベースの予想収穫量（主食用）※²は78万4,100tで、前年産に比べ1万6,700t増加と見込まれる。

※2 生産者が使用しているふるい目幅（1.80mm、1.85mm）のふるい下米を含む。

図 水稻の作付面積（主食用）、10a当たり収量及び収穫量の推移（九州）



- 作況単収指数は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した10 a 当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する比率である。
- 10 a 当たり予想収量及び予想収穫量は、収穫を終えた地域では刈取り実測による結果であるが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定した結果である。したがって、今後の気象条件等により変動することがある。

表 1 水稻の年次別推移（九州）

年 産	作 付 面 積 (青刈り面積を含む。)	生産者が使用している ふるい目幅で選別				作況 単収 指数	ふるい目幅 1.70mmで選別		
		主食用	10 a 当たり 収 量	対前年比	収 穫 量 (主食用(生産者 ふるい上米))		10 a 当たり 収 量	対前年比	収 穫 量 (主食用(生産者 ふるい下米含む))
	ha	ha	kg	%	t		kg	%	t
平成27年産	198,000	166,300	467	nc	776,600	99	484	nc	806,100
28	195,500	161,300	489	105	788,100	104	507	105	817,500
29	194,500	158,700	490	100	779,400	105	510	101	811,400
30	191,800	156,100	494	101	771,400	104	512	100	800,000
令和元	191,100	155,100	418	85	647,400	87	435	85	674,300
2	189,700	153,200	404	97	617,600	84	440	101	673,300
3	187,500	149,300	467	116	693,600	100	485	110	723,800
4	185,500	144,400	464	99	666,300	101	494	102	713,200
5	183,200	139,500	480	103	668,300	107	497	101	693,800
6	181,500	138,200	466	97	643,200	104	489	98	676,000
7	183,300	149,500	492	106	736,900	106	513	105	767,400
8 (概数値)	184,000	153,900	486	99	747,900	103	510	99	784,100

資料：農林水産省統計部『作物統計』

注：1 作付面積（青刈り面積含む。）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積である。

2 作付面積（主食用）とは、作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

3 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10 a 当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である（令和8年産は予想）。

4 生産者が使用しているふるい目幅は、以下による。

平成27年産から令和元年産まで： 全国農業地域ごとに、過去5か年に生産者が使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅である。

令和2年産以降： 都道府県ごとに、過去5か年に生産者が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅である。

都道府県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県
ふるい目幅	1.85mm	1.85mm	1.80mm	1.85mm	1.85mm	1.80mm	1.80mm

5 「nc」は、計算不能であることを示している。

【調査結果】

1 作付面積

九州における令和8年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は18万4,000haで、前年産に比べ700ha増加が見込まれる。

また、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は15万3,900haで、前年産に比べ4,400ha増加が見込まれる。

2 10a 当たり予想収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）

9月25日現在における九州の10a 当たり予想収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は、486kg（前年産に比べ△6kg）と見込まれる。

これは、早期栽培では田植期以降、気温、日照時間ともに確保され初期生育は良好だったものの、6月の日照時間が少なかったことにより登熟に影響がみられた。普通栽培では、7月が高温多照に経過したことから全もみ数が確保されたものの、登熟が良好だった前年産をわずかに下回ることが見込まれるためである。

各県別にみると、以下のとおりである。

福岡県は481kg（前年産に比べ+3kg）、佐賀県は500kg（同△15kg）、長崎県は487kg（同△5kg）、熊本県は505kg（同+1kg）、大分県は464kg（同△24kg）、宮崎県は471kg（同△12kg）、鹿児島県は477kg（同△7kg）と見込まれる。

3 予想収穫量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）

主食用作付面積に10a 当たり予想収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）を乗じた予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は74万7,900t（前年産に比べ1万1,000t増加）と見込まれる。

4 作況単収指数

九州の作況単収指数は103と見込まれる。

参考

10a 当たり予想収量（ふるい目幅1.70mmベース）

9月25日現在における九州の10a 当たり予想収量（ふるい目幅1.70mmベース）は、510kg（前年産に比べ△3kg）と見込まれる。

各県別にみると、以下のとおりである。

福岡県は508kg（前年産に比べ+4kg）、佐賀県は526kg（同△14kg）、長崎県は499kg（同△3kg）、熊本県は530kg（同+5kg）、大分県は503kg（同△12kg）、宮崎県は481kg（同△11kg）、鹿児島県は488kg（同△5kg）と見込まれる。

予想収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））（ふるい目幅1.70mmベース）

主食用作付面積に10a 当たり予想収量（ふるい目幅1.70mmベース）を乗じた予想収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は78万4,100tで、前年産に比べ1万6,700t増加と見込まれる。

表2 令和8年産水稻の作付面積（主食用）及び9月25日現在の予想収穫量（九州）

区分		作付面積（主食用）			生産者が使用しているふるい目幅で選別						作況 単収 指数
		実 数 ①	前年産との比較		10 a 当たり 予想収量		予想収穫量 （主食用（生産者ふるい上米））				
					実 数 ②	前年産との 比較 対 比	実 数 ③=①×②	前年産との比較			
			対 差	対 比				対 差	対 比		
		ha	ha	%	kg	%	t	t	%		
九	州	153,900	4,400	103	486	99	747,900	11,000	101	103	
福	岡	35,300	800	102	481	101	169,800	4,900	103	106	
佐	賀	24,600	900	104	500	97	123,000	900	101	102	
長	崎	9,450	△ 10	100	487	99	46,000	△ 500	99	104	
熊	本	33,200	1,300	104	505	100	167,700	6,900	104	105	
大	分	19,200	300	102	464	95	89,100	△3,100	97	100	
宮	崎	14,100	600	104	471	98	66,400	1,200	102	99	
うち 早期栽培		…	nc	nc	461	96	…	nc	nc	96	
うち 普通栽培		…	nc	nc	480	99	…	nc	nc	101	
鹿	児 島	18,000	400	102	477	99	85,900	700	101	102	
うち 早期栽培		…	nc	nc	460	99	…	nc	nc	101	
うち 普通栽培		…	nc	nc	483	99	…	nc	nc	102	

区分	ふるい目幅1.70mmで選別				
	10a 当たり 予想収量		予想収穫量 （主食用（生産者ふるい下米含む））		
	実数 ④	前年産との 比較 対 比	実数 ⑤=①×④	前年産との比較	
				対 差	対 比
	kg	%	t	t	%
九 州	510	99	784,100	16,700	102
福 岡	508	101	179,300	5,400	103
佐 賀	526	97	129,400	1,400	101
長 崎	499	99	47,200	△ 300	99
熊 本	530	101	176,000	8,500	105
大 分	503	98	96,600	△ 700	99
宮 崎	481	98	67,800	1,400	102
うち早期栽培	466	95	…	nc	nc
うち普通栽培	492	100	…	nc	nc
鹿 児 島	488	99	87,800	1,000	101
うち早期栽培	467	99	…	nc	nc
うち普通栽培	494	99	…	nc	nc

注：1 作付面積（主食用）（①）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

なお、熊本県においては営農計画書等の変更提出期限が延長されていることから今後変動することがある。

2 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10a 当たり予想収量（②）及び予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米））（③）は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。

3 生産者が使用しているふるい目幅で選別の10a 当たり予想収量（②）については、各県の過去5か年に生産者が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。

4 10a 当たり予想収量（④）及び予想収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））（⑤）は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

5 予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米））（③）及び予想収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））（⑤）については、各県ごとの積上げ値を四捨五入しているため、表頭の計算は一致しない場合がある。

6 作況単収指数は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した10a 当たり予想収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する10a 当たり収量の比率である。

7 「nc」は、計算不能であることを示している。

【統計表】

<https://www.maff.go.jp/kyusyu/toukei/publish/R08.html#k1>

【調査の概要】

・ 面積調査

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/gaiyou/>

・ 作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/gaiyou/

【水稻調査結果の主な利活用】

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- ・ 「食料・農業・農村基本計画」における品目ごとの生産量や作付面積等のKPIの設定及び検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

【ホームページ掲載案内】

- ・ 九州の各種農林水産統計調査結果は、九州農政局ホームページの「統計情報」で御覧いただけます。

<https://www.maff.go.jp/kyusyu/toukei>



- ・ 全国の調査結果は、農林水産省ホームページの統計情報に掲載している分野別分類「作付面積・生産量、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/#y3



- ・ 本資料のうち、作付面積は概数値であり、確定した詳細な数値は、ホームページに掲載（令和9年2月予定）します。
- ・ 次回（10月25日現在）の公表は、令和8年11月中旬の予定です。
- ・ 公表した数値の正誤情報は、ホームページでお知らせします。

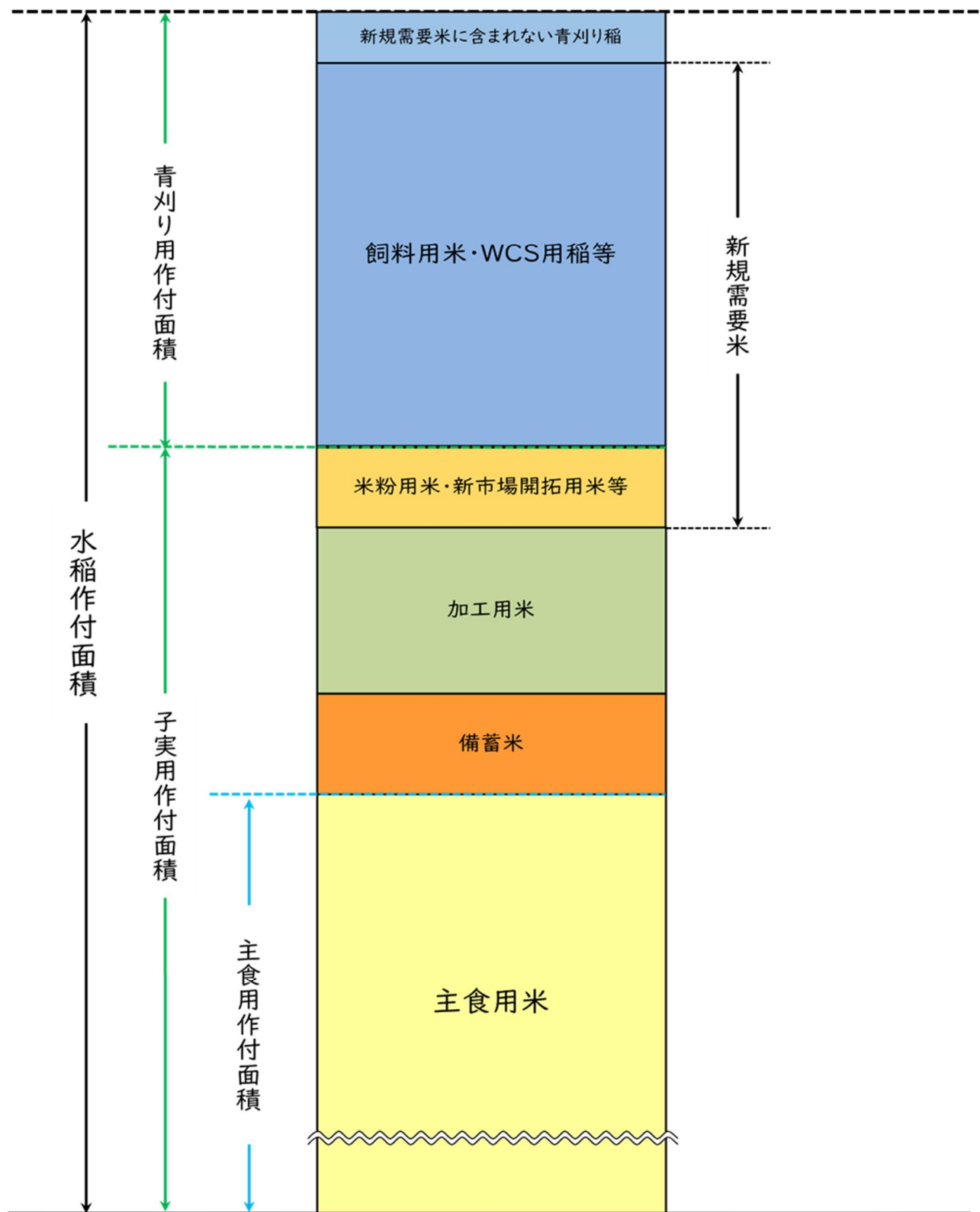
【関連リンク】

- ・ 農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞農産局
<https://www.maff.go.jp/j/nousan/>
- ・ 病害虫に関する情報：農林水産省＞組織別から探す＞消費・安全局＞病害虫の防除に関する情報
<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/>

※ 上記リンクでは、病害虫の防除に関する情報として、総合防除の推進や発生予防事業による病害虫の発生予測等について掲載しています。

なお、「植物防疫年報」として公開している病害虫の発生面積は病害虫の発生予測の参考として調査を行っているもので、農作物の作付面積、収量等の調査を行っている作物統計調査とは調査目的や調査方法等が異なります。

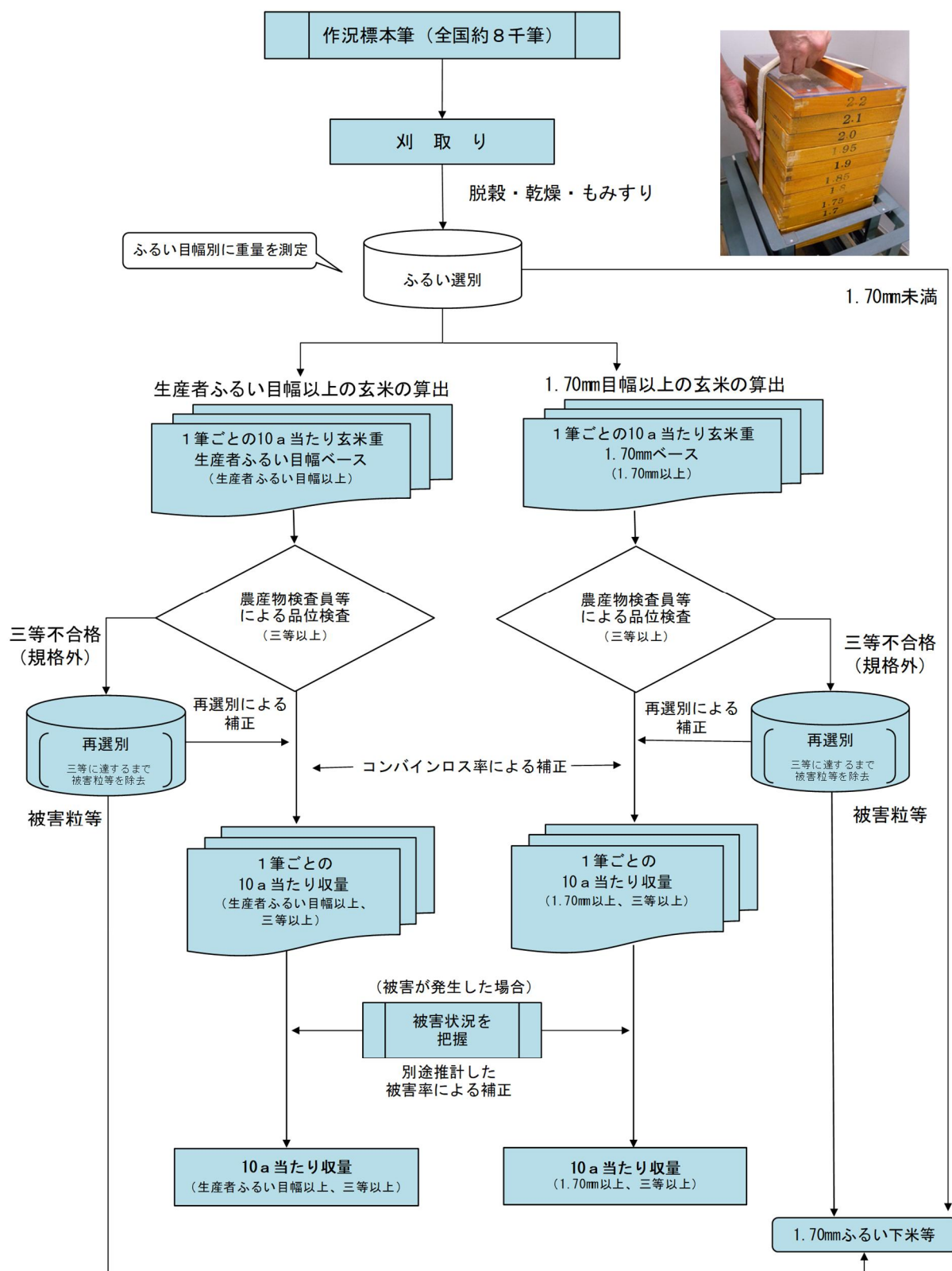
水稻作付面積の概念図



【参考 2】

刈取り調査における 10 a 当たり収量の算出方法

作況標本筆（【参考 3】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位以上に相当するよう選別を行い、その重さを計測し、コンバインロス率及び被害率による補正を行い10 a 当たり収量を算出している（下図参照）。

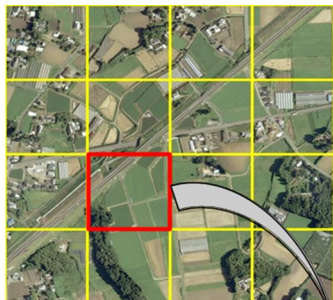


【参考3】

作況標本筆^{ふで}とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を筆と呼ぶ。）^{ふで}は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（全国で約8千筆）調査している。

全国の全ての土地
（母集団）



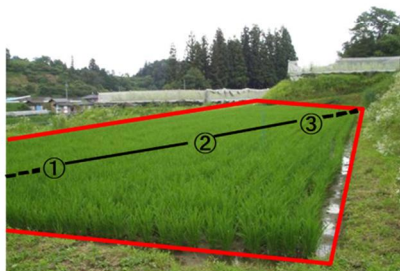
- 1 全国の全ての土地を200m四方（北海道は、400m四方）に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区
（200m四方の土地）



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆
（全国で約8千筆）

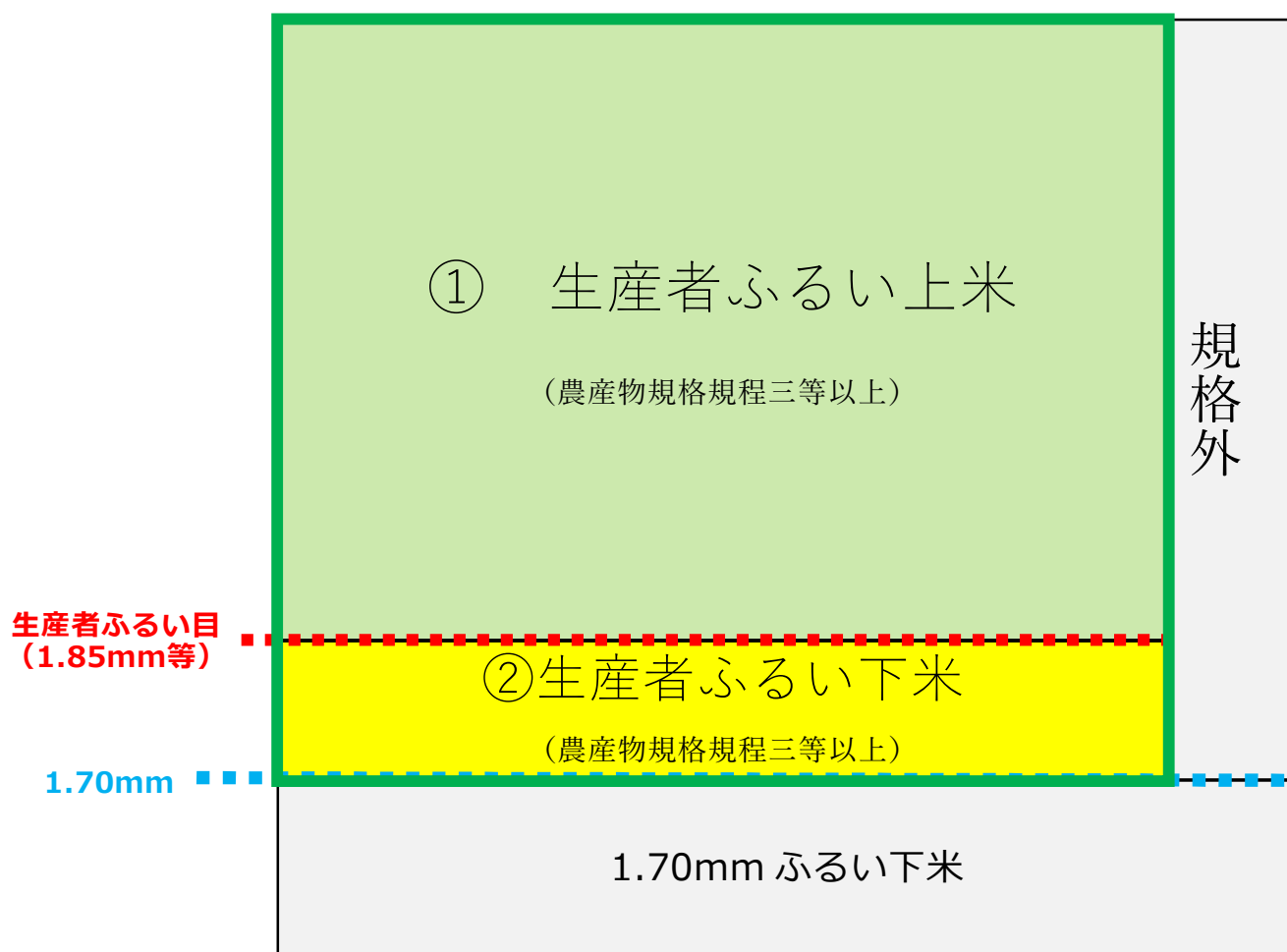


- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

【参考 4】

水稻収穫量調査の収穫量イメージ

- ① 収穫量（生産者ふるい上米）は、都道府県ごとに最も使用されている生産者ふるい目（1.80～1.90mm）以上で農産物規格規程三等以上の収穫量を対象としている。
- ② 収穫量（生産者ふるい下米）は、ふるい目幅 1.70mm 以上、農産物規格規程三等以上で生産者ふるい目幅未満の収穫量を対象としている。
- ③ 収穫量（生産者ふるい下米含む）は、①と②をあわせた収穫量（緑枠）を対象としている。



お問合せ先

◎本統計調査結果について

九州農政局 統計部 生産流通消費統計課

面積 電話：（直通）096-300-6561（統計専門官）

収穫量 電話：（直通）096-300-6576（統計品質向上専門官）

九州農政局 福岡県拠点 統計担当

電話：（直通）092-281-8262

九州農政局 佐賀県拠点 統計担当

電話：（直通）0952-26-4138

九州農政局 長崎県拠点 統計担当

電話：（直通）095-845-6227

九州農政局 統計部 統計調査担当

電話：（直通）096-300-6583

九州農政局 大分県拠点 統計担当

電話：（直通）097-532-6177

九州農政局 宮崎県拠点 統計担当

電話：（直通）0985-24-2373

九州農政局 鹿児島県拠点 統計担当

電話：（直通）099-222-7583



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>



◎農林水産統計全般について

九州農政局 統計部 統計企画課（企画係長）

電話：（直通）096-300-6540



2027年国際園芸博覧会
2027.3.19-9.26 横浜・上瀬谷



○オンラインコミュニティ「みのりボイス」の開設について

水稻生産者や関係機関の皆様が参加できるオンラインコミュニティ「みのりボイス」を開設しました。生産者・農業関係者ならどなたでも参加でき、皆様から共有いただいた全国各地の生育状況や被害情報などを地図上で確認できるほか、農業ニュースや気象情報も閲覧でき、日々の営農判断にもご活用いただけます。

以下の URL または右側の二次元コードから、ぜひご参加ください。

<https://minori-voice.maff.go.jp/lp/>



○水稻収穫量調査の試行調査について

一部の水稲生産者の方々を対象に水稻収穫量調査の試行調査を実施しております。

調査時期 令和8年9月、10月、11月の3回

調査方法 統計調査員による聞き取り、オンライン、郵送のいずれか

オンライン、郵送調査は農林水産省作物統計調査第2次試行調査事務局により実施します。

お忙しいところ大変お手数をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。